

# NIET および点鼻、Bspot 療法により 潰瘍性大腸炎が、改善した 1 症例

山田 文夫 Fumio YAMADA

山田歯科 〒 487-0032 春日井市高森台 10-2-3-4

## 【はじめに】

従来、潰瘍性大腸炎は治癒困難な病気とされてきました。

平成 25 年では、151,116 人（厚労省発表）が、特定医療疾患に認定されており自己免疫疾患といわれています。

## 【症 例】

男性 41 歳

15 年前より腹痛、下痢、血便の為 年 2、3 回入院を繰り返した患者さんは、通常 4 週間の入院で、始めの 3 週間は絶食・点滴だけ、あと 1 週間で、ゆっくり食事をして回復すれば退院というパターンでした。

〈初診〉平成 27 年 8 月 3 日 # 38 の抜歯の目的で来院



〈平成 27 年 8 月 3 日 パノラマ写真〉

今回、この患者さんと御縁がありまして、口腔内の治療と共に、大腸炎の治療をすることになりました。

## 【治療経過】

### 1、徹底した免疫アップ

- ・あいうべ体操 就眠時口テープによる鼻呼吸の徹底
- ・鼻うがい（生食+電解機能水エピオス極少量含有）
- ・点鼻（0.5% 塩化亜鉛）1 日 2 回
- ・Bspot 療法（1% 塩化亜鉛）治療開始の頃は、私が施術していましたが、その後セルフ Bspot 療法ができるように指導、セルフの場合 1 日 2 回しました

### 2、口腔内の治療

- ・全体に歯周病のため歯周病の治療



〈初診時の口腔の写真〉

- ・ # 38 の残根の抜歯
- ・ # 18P4 の為抜歯
- ・ # 36 根尖性歯周組織及び GA の為 3Mix-MP 法により NIET 施行
- ・ # 46 遠心面カリエス、3Mix-MP 法により CR インレーセット

・ギターの教師のため、右手がしびれるとの事もあり  
 あり AKA- 博田法により体幹の調整及び咬合調整  
 以上の処置後3週間経過位より大腸炎がみるみる改善していく。

患者さんは、改善しているといわれるも、私だけでは心配でしたので、仙台の堀田修先生に御高診して頂きました。

(治療開始3ヶ月後のH 27年 11月の事です。又、堀田先生が、豊橋の成田記念病院に1ヶ月に1回診療にみえるため)

その折、堀田先生の見解では血液検査の結果、別の方が、入ってみえたのでは思われるくらいCRP、IgG、IgA、IgM、白血球分画が正常になっていました。

総コレステロール	II	221	150~219	mg/d	その
LDL-コレステロール		132	~139	mg/d	結果
HDL-コレステロール		77	40~95	mg/d	その
中性脂肪	L	39	50~149	mg/d	結果
eGFR		62	.		その
CRP		0.03	0.50 ↓	mg/d	結果
IgG		1156	870~1700	mg/d	その
IgA		216	110~410	mg/d	結果
IgM		209	35~220	mg/d	結果
尿中アミノ酸		134.2	.	mg/d	カ
白血球数		7.3	3.0~9.1	10 <sup>3</sup>	値
赤血球数		5.22	4.14~5.63	10 <sup>6</sup>	変
血色素量		16.3	12.9~17.4	g/dl	混

成田記念病院での検査結果 平成 27年 11月

7ヶ月後の血液検査結果

検査項目	結果値	基準値	単位
CRP	0.13	0.50 ↓	mg/d
IgG	1132	870~1700	mg/d
IgA	203	1100~410	mg/d
IgM	187	35~220	mg/d
白血球数	7.1	3.0~9.1	× 10 <sup>3</sup> / μL
血小板数	21.5	13.0~36.9	× 10 <sup>4</sup> / μL
好中球	48.1	44.0~72.0	%
リンパ球	32.5	17~57	%
単球	5.9	0~10	%
好酸球	6.0	0~10	%
好塩基球	1.1	0~2	%

名古屋市北区山田クリニックに依頼 H28/6/1

7ヶ月後もCRP、IgG、IgA、IgM、白血球分画は正常でした。本人によりますと、体調もよく、完治したと言われます。

また、右手が思う様にならず、もう仕事を止めようかと考えていたが、俄然やる気がでて、人生が変わった、といわれる位、喜んでいただきました。

#### 【考察】

堀田先生によりますと現在、免疫疾患の多くは、上咽頭周辺の免疫機能不全と考えられ、Bspot療法が効果的と、ことあるごとに言われてみえます。

今回たまたま、口腔内の治療とともに免疫を上昇させる治療を行いましたら、完治致しました。これからは、免疫の上昇の治療だけでは、片手落ちではと考えられ、歯科による治療が益々重要と考えられます。

#### <参考文献>

- 堀田 修：道なき道の先を診る  
 医薬経済社  
 ：病気が治る鼻うがい健康法  
 角川マガジズ
- 今井一彰：健康でいたければ鼻呼吸にしません  
 (あいうべ体操とロテープでカラダがよみがえる)  
 河出書房
- 堀口申作：原因不明の病気が治る  
 (Dr. 堀口のBスポット療法)  
 光文社